本願寺新報
hongwanji journal

4月1日(火曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

御本山御用達
開明社々員
京法衣事業協同組合加盟
satsumaya KYOTO
株式会社 さつま屋法衣店
〒600-8334 京都市下京区油小路通六条下ル
TEL 075-351-1548(代) FAX 075-351-1008
0120-310-063
https://satsumaya.kyoto

今号の紙面

東日本大震災 離郷門徒が集う 出張法話会…8

第325回定期宗会 ……2
みんなの法話……4
学ぶ親鸞聖人　ご生涯×教え…5
お釈迦さまの前世物語……3
季節の養生と薬膳……3
本願寺インスタ倶楽部……3
読者のひろば……7

赤光白光

かつて大学で仏教学を教えていた頃に見た、ある学生が出したレポートが今でも鮮明に思い浮かぶ。その内容は、教科書に書かれていることには間違いはなく、正しいことばかりであろう。それに比べると祖母のことばは、間違っていることがあるかもしれない。でも祖母のことばには「あたたかみ」がある、と書かれていた。

▼間違っていてもあたたかみを覚える、ということばが響いてくる。「あたたかみ」を感じる関係性は長い時間をかけて醸成されていくものであろう。すぐに結果を求められ、間違いがゆるされない風潮が強くなった社会である。私たちもまた、間違いがわかるとすぐに切り捨ててしまってはいないであろうか。切り捨てられる不安ではなく、どこまでもよりそい、丁寧に受け止めてくれる存在はあたたかい。

▼親鸞聖人は「この身は、いまは、としきはまりて候へば、さだめてさきだちて往生し候はんずれば、浄土にてかならずかならずまちまゐらせ候ふべし」と、ご消息に述べられている。なんと人間的なあたたかさに満ちあふれたことばであることか。

▼現代は「待つ」ということばも消え失せようとしている。「待つ」ということばも再興させたい。それは、この語に限りなく人を思うこころ、あたたかみが込められているといってよいからである。置いてけぼりにさせてしまう待てない社会は冷たさを感じる。今こそ「あたたかさ」「待つ」ということに、心をよせていきたいものである。

福岡支局 〒812ー0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

トップニュース

一昨年のマウイ山火事で本堂など焼失　ラハイナ本願寺の廣中開教使が本山に

2023年8月8日に起きたハワイ・マウイ島山火事で焼失したラハイナ本願寺・廣中愛開教使(48、広島県東広島市・光乗寺衆徒)が、日本からの支援に感謝の気持ちを伝えようと来日。本山で2月26日、全国から宗会に集った宗会議員へ感謝の言葉を述べた。あの日からの歩み、復興に向けたハワイ開教区(海谷聡之開教総長)の取り組みなど、廣中開教使に聞いた。

㊤火災の後、整地されたラハイナ本願寺の境内。本堂は階段の先に建っていた＝昨年12月27日撮影
㊦焼失したラハイナ本願寺の本堂。1933年に建てられた

廣中開教使は「マウイ島山火事災害に際し、日本の皆さまからの多くのご支援と温かいお心、ラハイナ本願寺を代表し心よりお礼申し上げます」と謝辞を述べ、あの日からの歩みを語った。

「あの朝、ハリケーンの暴風が街を襲いました。目を覚ますと停電していて、通信は遮断。境内の大木は倒れ、電柱が次々と崩れていきました。庫裏の窓は砕け、玄関の扉も風に押されて倒れ込み、被害は刻一刻と広がっていました」

火の手が上がったのは午後。境内の駐車場に山火事を逃れてきた車が次々と止まり、人々が避難してきた。煤にまみれて震える姿にただならぬ状況を察したという。防犯のために戸締まりをした後、再び駐車場に戻ると車も人影も消えていた。暴風に煽られた黒煙があたりを覆い尽くし、耳をつんざく爆発音、今まで嗅いだことのない匂いが風に乗って充満した。「ただ、避難を知らせるサイレンは鳴っていませんでした。でも、妻の『熱い』というつぶやきに避難しようと考え、2日分の着替えをつかんで車に乗り込みました。その時でさえ、まさかお寺が焼けるとは思えず、どこかで『大丈夫だ』と信じていました」。

駐車場を出て車のバックミラーを見ると真っ赤に燃える家が映る。「炎はバーナーのように唸りを上げ、轟音とともに周囲をのみ込み、暴風に煽られた火の手は瞬く間に広がり、街を焼き尽くしていきました」。ラハイナでは102人の命が失われ、2200棟以上が焼失。その86%が住宅で、多くの住民が住まいを失った。ラハイナ本願寺は、納骨堂を除く本堂、旧日本語学校校舎、寺務所、会館、庫裏がすべて焼け落ちた。

廣中開教使は家族6人で、3週間ほどメンバー(門信徒)宅に身を寄せ、その後、赤十字が準備したコンドミニアム型シェルター(避難所)で3カ月間暮らした。「他島への一時避難を勧めてくださる方もいましたが、同じ境遇の方々と共に暮らしたいと思いました。大切なものを失い、深い悲しみを抱える者同士、言葉にせずとも、その痛みを共にできる場所がありました。共に過ごすことが心の支えになりました」と振り返る。

◇

廣中開教使は現在、約30キロ離れたマウイ島中央部にあるカフルイ本願寺に駐在する。「ラハイナはがれきの撤去がほぼ完了し、一部では家の再建も始まっています。立ち入り規制は残るものの、焼失を免れたメンバーは自宅に戻っています。しかし、多くの人々はいまだにラハイナを離れ、仮住まいを余儀なくされています。この状況の中でも、メンバー同士のつながりは途切れることなく続いています」と説明する。

ラハイナ本願寺再建に向けた手続きも徐々に進む。ハワイ王国の首都という歴史的な街ラハイナに190

「『なんまんだぶ』さま、メンバーと前へ」

焼け残った階段に…

ラハイナ本願寺の境内には、親鸞聖人像と本堂に続く階段(写真)、そして納骨堂が残る。

廣中開教使は「あの階段にはラハイナ本願寺の歴史が刻まれています。第2次世界大戦が始まった時のことです。ハワイの開教使たちは北米大陸の収容所へ移送され、ラハイナ本願寺もアメリカ政府に占領されるという知らせが入りました。メンバーのカワハラさんという方があの階段に座り、FBIを待っていたといいます。寺に到着したFBIにカワハラさんはこう告げました。『この建物は念仏の道場だ。占領するなら、あちらの日本語学校にしなさい。ここには一歩も入れさせない』と。彼は、自らの身に危険が及ぶことを承知の上で、この本堂を護りました。こうした人たちによって長い年月、護られてきた本堂。しかし、その本堂が焼け落ちる中、ご本尊をお運びすることがかないませんでした。そのことが今でも胸に残り、申し訳ない思いでいっぱいです」と目を伏せる。

失意の中で、地元の新聞に掲載された本堂が燃える様子の写真を何度も目にするうち、ひとつの思いが芽生えたという。

「本堂がまるでひとつの命のように思えてきたのです。炎が迫る中、私は生身の人間として逃げるしかありませんでした。しかし、本堂は最後までその場を動くことなく、炎に包まれながらも、ご本尊を護り続け、ついにはその役目を終えました。開教使が留守にする間、お寺を護ってくれているのは本堂です。そのことにあらためて気づき、本堂に対して頭が高かったと、深く反省しました」

そして、「あのご本尊が語りかけてくれているように感じました。もし、私がご本尊を運び出せていたら、誇らしげに語っていたかもしれません。後輩や同僚に『命より大切なご本尊と過去帳を運び出せ』と、知らず知らずのうちに傲慢な指導をしていたかもしれません。あのご本尊は『私が無事に運び出されたことで、お前の心が傲慢になるのなら、それはお念仏のこころから遠ざかることにはならないか。私が焼けてなくなったことで、お前が本当の南無阿弥陀仏のこころに浸るのならば、それでよかったのではないか。木像も、絵像も、名号も、すべては縁がととのえば形あるものとして消え去る。私が助かったとしても、お前の口からお念仏が出ないのであれば、それに何の意味があるだろう。私がこの世から焼失しても、お前の口から南無阿弥陀仏が響き続けるのであれば、それが私の本望であり、それが私の本来の姿である。これからは、お前の称えるお念仏をご本尊として、メンバーとともに歩んでいきなさい』と。私はそのようにいただいております。自分のことばかりで、お念仏が出てこない日々でした。私の煩悩をこじ開け、いや私自身をこじ開けて『なんまんだぶ』さまが出てくださいました。声のご本尊さまとともに、メンバーの皆さんとともに、そして皆さまのご協力とともに、前へ進んでまいります。どうかこれからも、温かく見守ってくださいますよう、心よりお願いいたします」と静かに語った。

浄土真宗本願寺派 傷害・医療保険
あんのん医療保険
団体割引30%
(新・団体医療保険〈医療保険基本特約・疾病保険特約セット団体総合保険〉・傷害総合保険)
【加入対象者】浄土真宗本願寺派の住職・僧侶・寺族・門徒およびその家族
病気やケガによる入院や手術等を幅広く補償。(天災によるケガも対象)
◆1日5,000円プランより　◆入院1日目より補償
★新規加入は満79歳まで、継続加入は満89歳まで拡大
介護・がん のリスクにも対応!!
介護特約　要介護2以上の認定、または保険会社所定の要介護状態が90日を超え継続した場合に、一時金で100～300万円を補償
がん特約　がん診断一時金　がん通院治療費用 にかかる特約もセット可能
この広告は概要を説明したものです。詳しくは下記取扱代理店までお問い合わせください。引受保険会社損害保険ジャパン株式会社 SJ24-10332 (2024.11.14作成)
フリーコール 0120-37-0243
https://www.purani-hongwanjihahoken.com
ホームページ
<取扱代理店>
浄土真宗本願寺派提携代理店 株式会社 プラニ
【代理店所在地】〒600-8109 京都市下京区五条通西洞院西入平屋町 420RM ビル3F
健康経営優良法人 2024 Health and productivity
認定 特定非営利活動法人

御本山御用達　開明社員
井筒法衣店
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通
新花屋町角(西本願寺前)
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
三栄町十四番地三一
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902
代表取締役社長　今岡規代
オンラインショップは こちらから

新刊　帰京後の親鸞――明日にともしびを――⑪
八十四歳の親鸞
――『西方指南抄』――
今井雅晴(筑波大学名誉教授)
84歳の親鸞聖人が4カ月もの月日をかけて、師・法然聖人の法語や書状を集めた『西方指南抄』の書写に取り組んだのはなぜか。同書の内容を丹念に検証しつつ、その理由を探る。
B6判・並製・112頁　1100円
聖人の晩年30年を考察するシリーズ《全15冊》予約受付中
新刊　善導大師の「自信教人信」のおこころを仰ぐ
「帰三宝偈」のこころ
〔訳〕豊原大成(本願寺派元総長)　〔解説〕赤井智顕(相愛大学講師)　発行：聞真会
葬儀の際に用いられる善導大師『観経四帖疏』冒頭の偈文には、何が説かれているのか。意訳と解説により、大師渾身のそのお言葉を味わう。
B6判・並製・72頁　660円
＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【赤井智顕 師 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7　電話：077-507-8209　FAX：077-507-9926

ブディストマガジン 大乗 DAIJO 4月号
本日発売!
毎月1日発行
B5判／80ページ
年間購読料 4,500円(税・送料込)
1冊 375円(税・送料込)
● 華遇記 ……藤井 真
● DAIJO法話 ……中川 大城
● ご機言! お寺の掲示板 ……江田 智昭
● 結婚してお坊さんになりました ……前田 純代
● なるほど仏教ライフ ……西原 祐治
● みのりのエッセー…栗原 一乗
● 大乗 ほうわ・HOWA・法話 ……佐藤 知水
―― その他好評連載コーナー多数!
本願寺出版社
0120-464-583
FAX 075-341-7753
〒600-8501
京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/